

わかやま



和歌山県精神保健福祉センター 2023年5月 No.95

もくじ

- P1 「着任の御挨拶」精神保健福祉センター 所長 中川浩二
- P2 令和5年度「こころの集い」講演会「牧師といのちの崖」のお知らせ
- P3、P4 県精神保健福祉センターからのご報告／ご案内
- P5 地域の様々な活動紹介コーナー「くまのっ子児童家庭支援センターのこのこ」
- P6 はーとふるネットワーク「ふたば神島ホーム 統括責任者 榎本恵理さん」



「着任の御挨拶

～様々な精神保健課題に対応できる身近なパートナーを目指して～

和歌山県精神保健福祉センター 所長 中川 浩二

令和5年4月に和歌山県精神保健福祉センター所長として着任いたしました中川でございます。関係機関のみなさまには、日頃から和歌山県の精神保健福祉行政に御理解と御協力を賜っていますこと、また前職の和歌山県障害福祉課副課長の際にもたいへんお世話になりましたことに心から感謝を申し上げます。

さて、精神保健福祉センター（以下、「センター」という）は、精神保健福祉に関する総合的技術センターであり、地域精神保健福祉活動の中核となる機関として、昭和40(1965)年の精神衛生法の一部改正により、前身である精神衛生センターとして、法律に位置付けられたものです。和歌山県における精神衛生センターの設置は、そのまた前身に当たる精神衛生相談所を経て、昭和56(1981)年に現在の県立こころの医療センター内に設置されることとなりました。その後、当センターが現在の場所に移転したのは、平成10(1998)年12月です。翌年の4月にそれまでの所長と心理士に加え、保健師と精神保健相談員を新たに配置し、4名の体制でスタートしました。実は、その時の精神保健相談員が私だったのです。

スタッフ4名のセンターは、全国で最も小さな規模でした。それでも新天地に移ってきたことから、それまでできていなかった、関係機関向けの研修会や厚労省からの依頼で認知症関連の全国研修を開催したり、普及啓発の観点から県民向けの講演会を企画したりと精力的に新しいことに取り組みました。このセンターだより「わかやま」も県内の関係機関にセンターの存在を広く知ってもらおうということから、私が担当し、平成11(1999)年10月に第1号を発刊しました。発刊に当たって、全国のセンターだよりを参考にしたのですが、他の自治体が光沢のあるコート紙やマット紙などを使用し印刷業者に発注されたものであったため、和歌山県でもそのようなものを作ろうと本庁に掛け合ったところ、「予算がない。まずはコピーでよろしい。」と言われ、消沈しコピー機で手作りしたことを今回本文を書くに当たり思い出しました。しかし、

あれから24年経ちましたが、未だに当時と変わらず、カラーコピーもできないコピー機で手作りをしている状況です。随分と長い「まずは」になっています。

少々昔話が長くなりました。和歌山県のセンターは、開設以来、所長は精神科医が務めてきました。先述しましたが、私は精神保健相談員で精神保健福祉士です。全国的にも最近では、医師ではない職種がセンター所長を務める自治体がちらほらあるようです。折しも、改正精神保健福祉法の施行が、5年4月、6年4月と続き、医療保護入院期間の法定化や精神科病院内での虐待通報の義務化など、センターが事務局を務める精神医療審査会の運営にも影響がでると思われます。さらに他の自治体に先駆けて和歌山県が行う、「入院者訪問支援事業」の実施や市町村等が行う精神保健に関する相談支援の対象者の見直しなど、これまで以上に技術支援が求められることとなります。

このように課題の多いこの時期に果たして医師ではない私で務まるのか不安しかありません。しかし、せっかくいただいた機会ですので、保健福祉の専門職として、精神に障害のある方の社会的復権と精神保健の様々な課題を抱える県民のみなさまに対し、当センターが地域社会において果たすべき役割について、深く考え、誰もが自分らしい生き方を実現し、充実した生活を送ることができること。それと併せて、みなさまにとって身近な存在となるよう取り組んでまいりますので、御支援賜りますようどうぞよろ

令和5年度「こころの集い」講演会のお知らせ 無料

「牧師といのちの崖」上映と講演

風光明媚な観光名所であり自殺の名所としても知られる三段壁

人生に絶望した自殺志願者とともに暮らす牧師。

彼らの日々が問いかける生きる意味とは・・・



講師 白浜バプテスト基督教会牧師

藤藪 庸一 氏

NPO 法人白浜町レスキューネットワーク理事長
白浜町で自殺防止活動や自立支援活動に取り組み、
全国から注目されています。

加瀬澤充監督作品、監督・撮影・編集：加瀬澤充 プロデューサー：煙草谷有希子 音響：菊池信之 音響助手：近藤崇生

日時：令和5年6月13日(火) 14:00～15:40 (受付13:50～)

場所：県民交流プラザ和歌山ビッグ愛1階大ホール

申込先：和歌山県精神保健福祉協会 電話 073-435-5194 FAX073-435-5193

主催：和歌山県精神保健福祉協会 後援：和歌山県

開催報告

【わかちあいの会和歌山「うめの花」紀南交流会】

日時：R 5年3月18日（土）12:30~16:00

会場：西牟婁総合庁舎 4階 大会議室

内容：講演会「いのちの営み～わかちあいの会の活動を通じて～」

講師 わかちあいの会和歌山「うめの花」代表

高野山大学文学部准教授

高野山真言宗僧侶

公認心理士、臨床心理士 森崎雅好先生



音楽会

奏者 ボーカル、ギター：HIROKUNI さん、ピアノ：Yui さん、

音響 龍田俊夫さん

わかちあいの会交流会

参加者：22名

森崎先生には、仏教の教えとご自身の幼い頃からの体験を重ね、未完了の悲嘆と気づき、グリーフケアの意味について伝えていただきました。

音楽会では長渕剛さんの曲から熱唱いただき、会場は感動の渦で包まれました。

ご協力いただいた皆様、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



【わかちあいの会和歌山「うめの花」グリーフケア交流会】

日時：R 5年5月20日（土）13:30~15:30

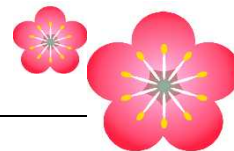
会場：和歌山県精神保健福祉センター プレイルーム（和歌山市手平2丁目1番2号 和歌山ビッグ愛2階）

対象：大切な人をご病気や事故等で亡くされたご家族やご友人など

参加者：4名

わかちあいの会和歌山「うめの花」では大切な人を自死で亡くされた方を対象にした自死遺族交流会に加えて、大切な人をご病気や事故等で亡くされた方を対象にした交流会を始めました。このような機会が県内にはない中で、待ち望まれていた交流会であると感じました。よろしければ必要な方にお知らせください。

令和5年度わかちあいの会和歌山「うめの花」交流会



	わかちあいの会(交流会)	グリーフケア(交流会)
対象	大切な人を自死で亡くされた方	大切な人を病気や事故で亡くされた方
会場	和歌山県精神保健福祉センター 令和5年7月1日と令和6年3月2日は西牟婁総合庁舎	和歌山県精神保健福祉センター
日時	偶数月、概ね第3土曜日 13:30~15:30 令和5年6月17日、7月1日、8月19日、10月21日、 12月16日（講演会・音楽会・交流会）、 令和6年2月17日	奇数月、概ね第3土曜日 13:30~15:30 令和5年7月15日、9月16日、11月18日、12月 16日（講演会・音楽会・交流会）、 令和6年3月16日

ご案内

【思春期セミナー】

○講演会 演題『思春期の発達課題とメンタルヘルス』

講師：児童精神科医 小野 善郎氏（前和歌山県精神保健福祉センター所長）

○日時 令和5年7月31日（月） 13:30～15:00

○会場 和歌山ビッグ愛 2階 201会議室（和歌山市手平2丁目1番2号）

○対象 思春期支援に携わる方及び興味のある方はどなたでも参加できます

○定員 50名・無料



【薬物関連問題にかかわるワークショップ研修会】

○講演会 演題『依存症の問題の本質と解決』

講師：和歌山ダルク代表理事 池谷 太輔氏

【体験談】 和歌山ダルク スタッフ

【個人ワーク】

【取組紹介】 県立こころの医療センター

精神保健福祉士 奥野昭太郎氏

○日時 令和5年8月25日（金） 13:30～16:30

○会場 有田市民会館 第1会議室（有田市箕島46）

○対象 保健福祉・医療・行政等の援助職従事者

依存症・薬物関連問題について、相談や支援に応じる方、予防教育や啓発に携わる方

○定員 先着30名・無料



【アルコール健康障害対策講演会】

○講演会 演題『アルコール健康障害の切れ目のない支援 ～SBIRTSの普及と実践～』

講師：辻本 士郎氏（東布施野田クリニック 名誉院長）

○日時 令和5年9月29日（金） 13:30～16:00

○会場 和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室2
（田辺市新庄町3353-9）

○対象 一般、当事者及びご家族、精神保健福祉従事者等

○定員 先着40名・無料



SBIRTSとは、飲酒問題を抱える人に、スクリーニング検査を実施して簡易介入を行い、依存症の疑いがあれば専門医療機関につなぎ、自助グループを紹介する方法です。

セミナー、研修会、講演会の申込み・問い合わせはセンターへお電話もしくはFAXで
6ページ下部に電話番号、FAX番号を記載しています。

1 募集内容 【ほっとする 笑顔つながる こころの絵 作品大募集】

R4年度最優秀賞作品

(1) 対象者 和歌山県内に在住、または通勤・通学している方

(2) 規格 ① 見る人の心をあたためる絵であれば内容は自由、② 自作で未発表の作品、お一人一点まで

③ 応募作品サイズ（最小）はがき大～（最大）画用紙四つ切り大

(3) 応募期間 令和5年8月1日（火）～ 9月8日（金）まで

(4) 応募のしかた 作品の裏に、氏名（ふりがな）、住所、電話番号、年齢（学年）、学校名（勤務先）を明記した用紙を貼った上、精神保健福祉センター内の「ほっとする 笑顔つながる こころの絵」募集係あて、ご応募ください

2 入賞者 最優秀賞 1名 優秀賞 2名 入選 若干名

3 表彰式 令和5年11月18日（土）に和歌山県プラザホープで開催する「こころのフェスタ2023」において表彰式及び入賞作品の展示、その他 詳しくは同封のチラシをご覧ください



地域の様々な活動紹介コーナー

R5.5.8 に和歌山県の委託事業として開設された「くまのっ子児童家庭支援センターのこのこ」代表の藤藪庸一先生に開設にかかる思いを伺いました。

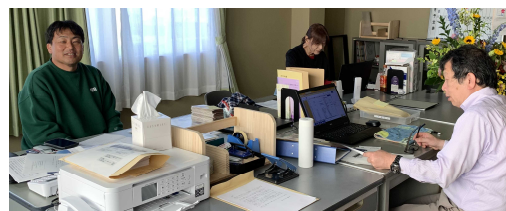


「くまのっ子児童家庭支援センターのこのこ」白浜町に開設

藤藪先生は、白浜レスキューネットワークの理事長で、長い間、人命救助、生活自立支援、自殺予防に取り組んでおられます。中でも最も力を入れているのが「自殺を選ばない世代をつくる」ことで、子供たちが生きていく力を身につけることを目指して学童保育事業を展開しています。そのような中で、もっと強力に子供たちをサポートしたいと考え、児童家庭支援センターの運営委託を申し出て、今年度から開始することになったそうです。

職員は精神保健福祉士1名、社会福祉士1名、臨床心理士2名、相談員1名です。子供たちの支援の中でも、より高度で専門的な支援を必要とする事例などをサポートします。

家庭及び地域の方々からの御相談をお待ちしています。



♥ 対象：18歳までの子供、父母などの養育者、市町村や学校など子供を支援する人

♥ 地域：主に紀南エリア

♥ 営業：月曜日から金曜日の午前9時から午後5時まで

♥ 所在地：〒649-2211 西牟婁郡白浜町1番地の1 青少年研修センター

♥ 電話：0739-42-5515

メール相談：nokonokojikasen@gmail.com LINE@相談：くまのっ子のこのこ



【取材後記】

「くまのっ子児童家庭支援センターのこのこ」は、県内2か所目の児童家庭支援センターになります。この度、紀南エリアに開設され、益々期待が高まります。皆さま、児家セン（児童家庭支援センターの略）へ御相談を宜しくお願い致します。精神保健福祉センターの生きる支援相談窓口一覧にも掲載しています。

【和歌山県精神保健福祉センターだより「わかやま」への掲載記事募集！！】

日頃より、精神保健福祉の推進にご協力いただいている施設・団体の皆さまの活動紹介やPRなど、当センターだよりに掲載させていただき記事を募集いたします。イベントや新しい取り組み等、広く周知させていただきます。

*センターだより発行時期：年4回（5月・8月・11月・2月それぞれの下旬）

*掲載時期や掲載枠については限りがありますので、まずは和歌山県精神保健福祉センターにご相談ください。

【お詫びと訂正】

センター便り令和5年2月号（94号）P7 地域の様々な活動紹介コーナーの「わかやまムーン」定例会の開催場所の住所に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

（正）和歌山市毛見 1130-1 T.T ビル1階

（誤）和歌山市内原 726-13 きずなライブラリー1階





はーとふるネットワーク

今回は、社会福祉法人ふたば福祉会ふたば神島ホーム 統括責任者 榎本恵理さんです。

-自己紹介をお願いいたします。

榎本恵理と申します。大阪出身で大学の教育学部を卒業後すぐに福祉職場に就職して、ふたば福祉会では17年になります。今年4月にふたば神島ホームに異動になり、田辺市及び上富田町にある7か所のグループホームの統括責任者をしています。入所者は合計42名で、主な障害は知的障害です。私は、各グループホームを巡回しています。



-ふたば神島ホームとは？

7ヶ所のグループホームの主たる事務所です。

-榎本さんのお仕事やその魅力は？

試行錯誤で色々な方法を試して、利用者が成長していくのを見守ることで。とても楽しくて、達成感があります。

今年、神島ホームに異動する前には、生活介護・自立訓練（生活訓練）をしている“たなかの杜”に勤務していました。そこでは、自立訓練（生活訓練）事業を活用し、福祉版の専攻科ともいえる学びの作業所「フォレスクール」の開設と運営を支えた経験があります。当時、養護学校を卒業された方の進路は、日本に数か所しかない『専攻科』への進学は現実的ではありませんし、就労や入所と限られていました。保護者の方は、生きる力になる学びができる場を切望されていました。その様な中で、2008年4月、全国初の学びの作業所としてフォレスクールが開設しました。自立した豊かな生活を営む力を身につけるために様々なプログラムをとおして2年間学びます。今では、フォレスクールのアイデアが広がって各地に学びの作業所ができています。

-支援をする際、一番大切にしていることはどのようなことですか？

当事者がどう思っているのか常に考えながら、出来ることは自分でしてもらい、後ろから支えて自立（自律）を促すことです。

-今後の抱負について教えてください。

グループホームは入所者の生活を支えることが役割なので、その責任の大きさを感じています。

日中、作業所に通所している入所者が、安心して帰ることができる居場所になればよいと思っています。

また、職員にとっても働きやすい・働きたい！と思えるような環境を作っていきたいです。

-最近のトピックや、はまっていることを教えてください。

旅行と韓流ドラマを見るのが大好きです。

-読者の皆様へのメッセージ

ふたば福祉会ではマルシェ、お祭りなどの楽しいイベントを計画しています。

皆さん気楽に来てください。



-次の方のご紹介をお願いします。

たなかの杜 フォレスクール サービス管理責任者 清水勇希さん です。



和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

(073) 435-5194 FAX (073) 435-5193